(学年) 4年

(教科・単元名) 国語 調べて発表しよう「手と心で読む」 作者 大島健甫(16時間扱い)

【実践内容】

1. 教材を読んで内容を捉える。(4時間)

(1) 題名の意味を考える。手と心で読むとは、どういうことなのか、「手で読む」「心で読む」の2つに分けて考え、意見を交流する。その後全文通読。「手で読む」ことについては、点字の話ということで理解できた。「心で読む」ことは、結論が出なかったため次の時間に考えていくことにした。第1段落に出てくる身の回りについて知っていることを発表させ、もっと知りたい意欲を持たせた。

(2) 「はじめ」「なか」「おわり」の文章構成を考えることによって、「心で読む」について読み取る。筆者の思い、題名の心と結びつけて考えさせる。2段落から7段落目が、筆者の回想場面と分かったところで、これらを抜いた文章と比べる。この部分が抜けても点字のことはよく分かるが、題名の心の部分が抜けてしまうことを捉えさせる。その後、「心」とは何かを考えさせる。文字を失うことの悲しさ、筆者の母親の気持ち、点字を教えてくれた母親への感謝、点字を読むことの大変さ、点字を見つけた筆者の喜びなど筆者の気持ちを捉えられた。

(3) 点字の歴史やルイ＝ブライユについて知る。筆者の伝えたかったことをまとめる。

2. 体験活動をする。(2時間)

・点字の本をさわってみる。

・点字を読む、打つ体験をする。(社会福祉協議会の中の点字ボランティアの方から点字器を借りる)

3. 調べて発表しよう。(10時間)

(1) 自分がかっこいいこと、知りたいことの課題を持つ。

(ルイ＝ブライユについて、世界の点字、盲導犬、点字の機械、点字の図書館、北原白秋の詩)

(2) 調べたい課題について本やパソコンを使って調べる。

(3) 新聞や模造紙、本などにまとめる。

(4) 発表の練習をする。

(5) 発表会をする。

・ 全体の前で発表したいグループ、店を開いて発表したいグループに分けて行う。

・ 店を開いて発表したいグループは、教室とオープンスペースを使って5箇所のコーナーを作る。3回に分けて行う。

発表者...まとめた物を読むのではなく、話の内容を考え、ポイントを絞って分かりやすく話す。みんなの方を見ながら話す。声の大きさや話す速さを工夫する。

聞き手...発表する人の方を見て、話を聞くようにする。分かったことや感想を伝える。良かった点をカードにまとめ発表者に渡す。

(学習のふりかえり)

教材文は、資料となっているが、題名や段落相互の関係から文章構成の工夫を読むことによって、筆者の思いを捉えられることができた。

体験活動を行うことによって、筆者への思いを膨らませることができた。また、点訳ボランティアの人の大変さを感じ取った。

調べたことを友達に伝えるという目的意識や相手意識を持たせたことで、まとめや発表の練習に進んで取り組むことができた。

調べ学習では、検索に手間取ったのであらかじめ教師のほうで適したサイトを見つけしていく必要性を感じた。また、図書準備もある程度は、必要である。